

優良賞

飢餓問題解決に向けて

桶川中学校三年 宗行 環奈

SDGsを知っていますか。最近特に耳にする言葉だと思います。日本語にすると「持続可能な開発目標」で、簡単にまとめると、世界中の様々な問題を2030年までに解決して、いこう、というものです。十七ある目標のうち、二番目にくるのが「飢餓をゼロに」です。世界では、日常的に空腹を抱えている人が約八億人いるといわれています。人口が増加し続けているため、飢えに苦しむ人がさらに増加するでしょう。この深刻な問題に対し、私たちができること、すべきことは何でしょうか。私は、食に関心を持ち、食べられることに感謝することだと思います。

ある日の給食のときのことです。私は、大量の残食を見ました。ほぼ全てのクラスのワ

ゴンに積み上げられた残食の山がありました。理由はシンプルです。そのメニューが好きではないからです。また別の日のことです。私が友だちと遊んでいたとき、彼女は、食べるのが面倒臭いから、

「お昼ごはんは食べなくていいや。」
と言って、持参していたお弁当をそのまま食わずに持ち帰ってしまいました。私は、衝撃を受けました。嫌いだから残す、食べるのが面倒臭いなど、私は、食えることが好きなので、この考えは理解に苦しみます。

何て贅沢な選択でしょう。私は、彼らに世界の飢餓の現状を知ってほしいです。FAO(国際連合食糧農業機関)の2020年の調査で、世界ではすべての人が十分に食べられるだけの食料が生産されていることが分かっています。それにもかかわらず、食料は行き渡っていないのです。日本は、食べ物が溢れている一方、大量に廃棄しています。家庭、学校の残食や企業の売れ残りが多いためです。しかし、これらの問題は個人の努力で変えられます。農林水産省の2018年度の調査によると、日本

人の一人一人がお茶碗一杯分、およそ 132 g 分のフードロスをなくせば、日本からフードロスをゼロにすることができるとのことです。食に関心がないから、彼らは簡単に食べ物を捨ててしまします。せっかく用意された食事も特に深い理由もなく、食べないでいられます。「食べ物を捨てる」ということに抵抗が小さいのです。

日本はとても恵まれています。それ故に、そのありがたさに気がつくことが難しいです。しかし、世界は多くの人が、十分な食べ物を得られていないことが現実です。だから、まずは知ってください。食に関心を持ってください。そして、責任を持ちましょう。本当に自分が食べ切れるのか、本当に食べられないのか、考えることが大切です。自分一人くらいが食べ物を捨てたところで大丈夫だろう、と思わないでください。その小さな積み重ねが、やがて何万人という人の命を奪います。私たち一人一人が、食べ物に対して意識を変えていく必要があります。これは、決して直

接的な解決策ではありません。しかし、確実に解決に繋がります。

もつと食の知識を持ちましょう。

もつと食べられることに感謝しましょう。

これは、飢餓問題解決の第一歩に、きつとなるはずで。